

宗派によるお焼香の違い

宗派	回数
浄土宗	1～3回 ※回数については特にこだわらない
浄土真宗本願寺派	1回
真言宗	3回
真宗大谷派	2回
真宗興正派	2回
曹洞宗	2回 ※回数については特にこだわらない
天台宗	1～3回 ※回数については特にこだわらない
日蓮宗	3回
日蓮正宗	3回
臨済宗	1回 ※回数については特にこだわらない

(五十音順)

ご仏前での
作法について



心のこもったお見送り
ゆぐち

一般葬・家族葬・法要に関するお問合せは よいくよう ☑ スマートフォンにも対応



0120(75)4194

葬儀 ゆぐち 検索

www.sougi-yuguchi.com

本社：〒767-0003 三豊市高瀬町比地中2205-1 TEL.0875(72)5474 FAX.0875(56)2080

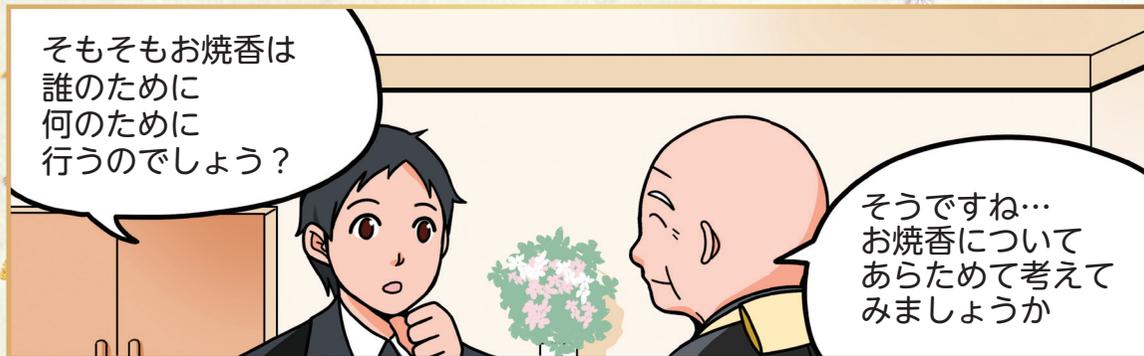
本書に記載されている情報の著作権は、有限会社ゆぐち装飾に帰属します。本書を無断で複写、改変転用およびウェブサイトへアップロードするなどの行為は固く禁止します。



心のこもったお見送り

ゆぐち

お焼香のいわれ



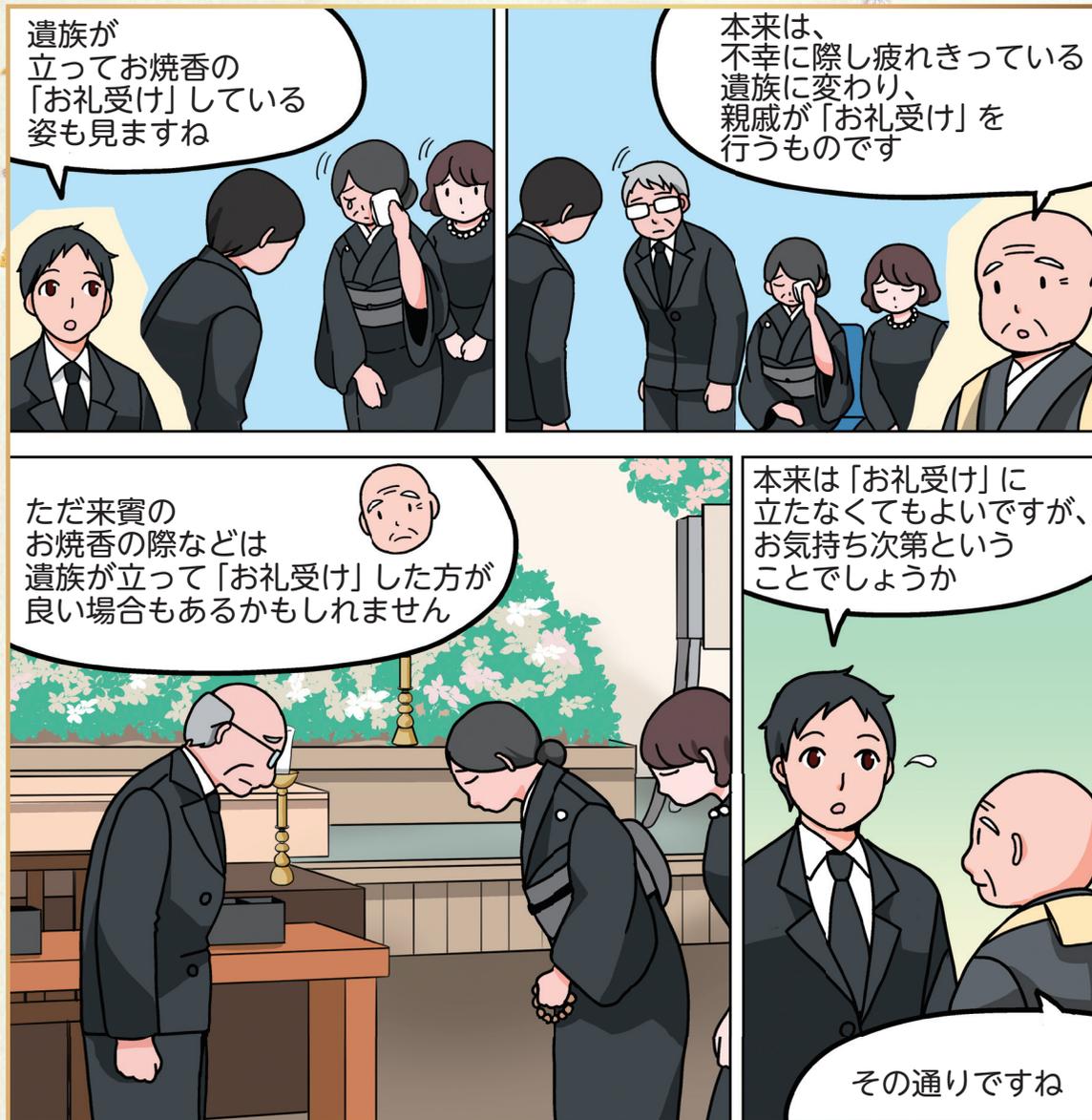
- 「お香」は古来より、人の願いや信心を仏様に伝える使者といわれ、私達の祈る心が香煙に乗って仏様やご先祖様に伝えられるといわれています。また「お香」は穢れを払い、香りを漂わせて邪気を除き心身を浄めるといわれますので、宗教的に不可欠なものです。
- お焼香の作法として「合掌・礼拝」の時に、儀式や自身の宗派のお念仏やお題目、御宝号を心の中で静かに唱えるとよいでしょう。

お焼香の考え方



お焼香については、儀式の宗派に合わせるという考え方と会葬者自身の宗派に合わせるという考え方があります。どちらも間違いではありませんが、会葬者が大勢の時は、儀式の流れに配慮し、焼香する回数を考えることや（敢えて1回にする）、合掌・礼拝の前に左右どちらかあいている場所に避けて次の方が香炉にすすみやすくしたりといった心遣いも必要でしょう。

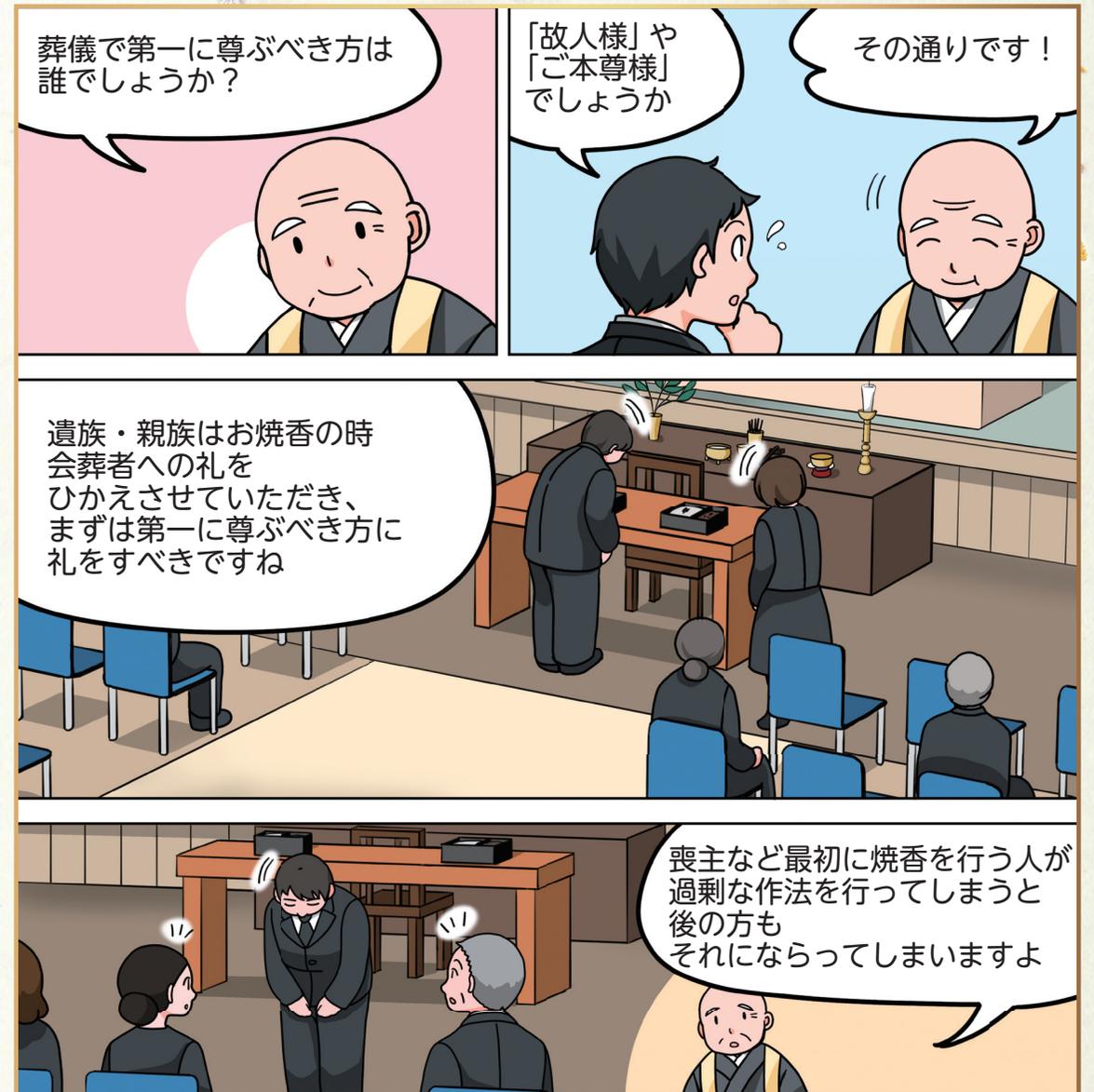
お焼香の際の「お礼受け」について



遺族はお焼香時に起立をして「お礼受け」の必要はありません。なぜなら、心身ともに疲れきっている遺族を労い親戚が変わってお焼香の「お礼受け」を行うというのが元々のあり方だからです。しかしながら、来賓のお焼香時には仕事上の立場もありますので、焼香場の横に起立し、「お礼受け」をしたほうが好ましいとの考え方も最近ではあります。

※ 遺族、親族、会葬者を問わず、葬儀式中は個々の挨拶や礼を行わないことが本来の作法といわれています。遺族、親族へのお悔やみの挨拶は、葬儀開式前か終了後に様子を見て行うべきものです。したがって、お焼香の時に礼を行うことは本来は必要ありません。

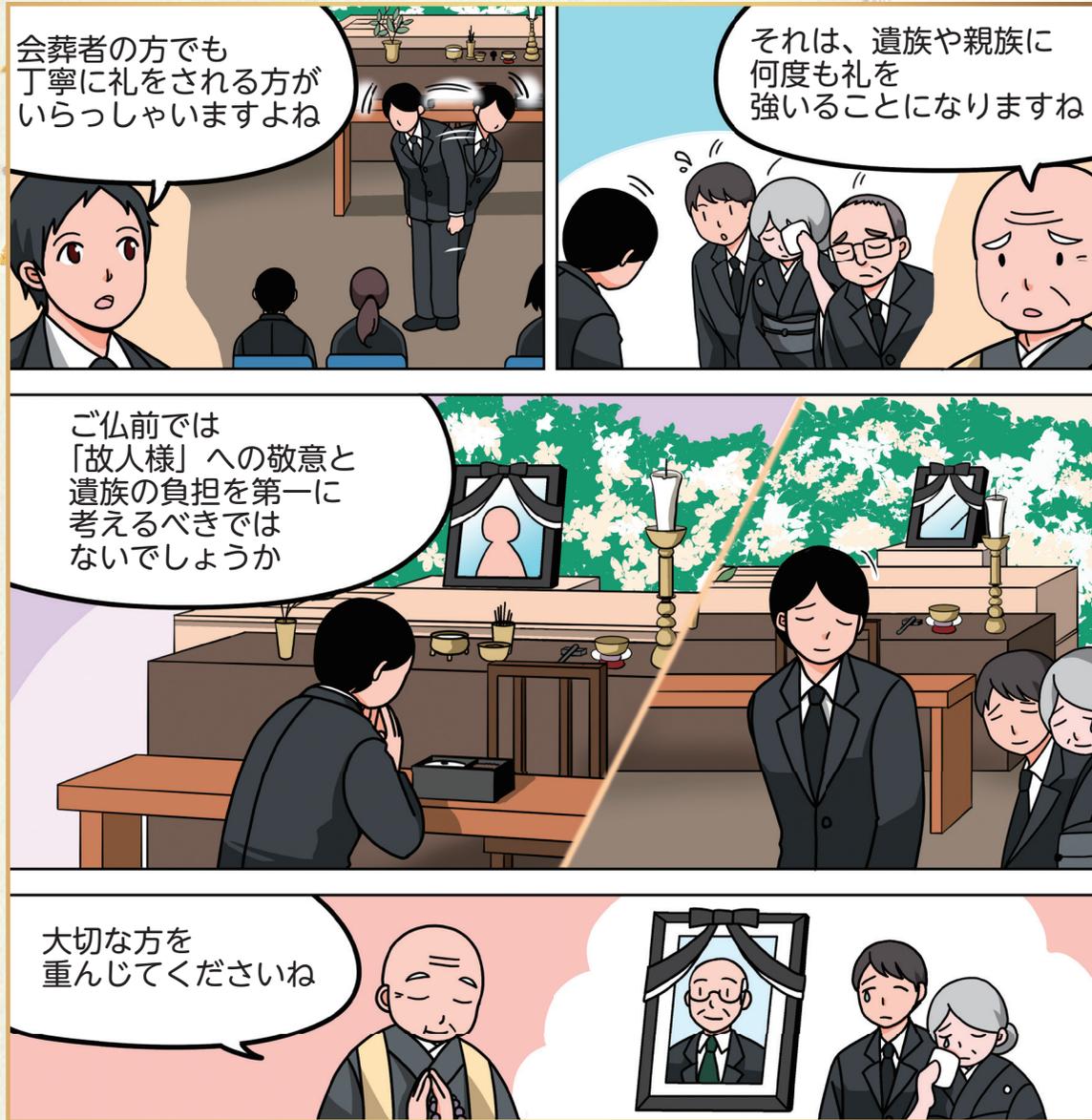
遺族・親族のお焼香について



近年、お焼香における過剰な作法を多くみかけますので注意しましょう。第一に遺族や親族が会葬者に一礼をして焼香場にすすむのはひかえましょう。葬儀の場において、第一に尊ぶべき方は「ご本尊様」や「故人様」になります。

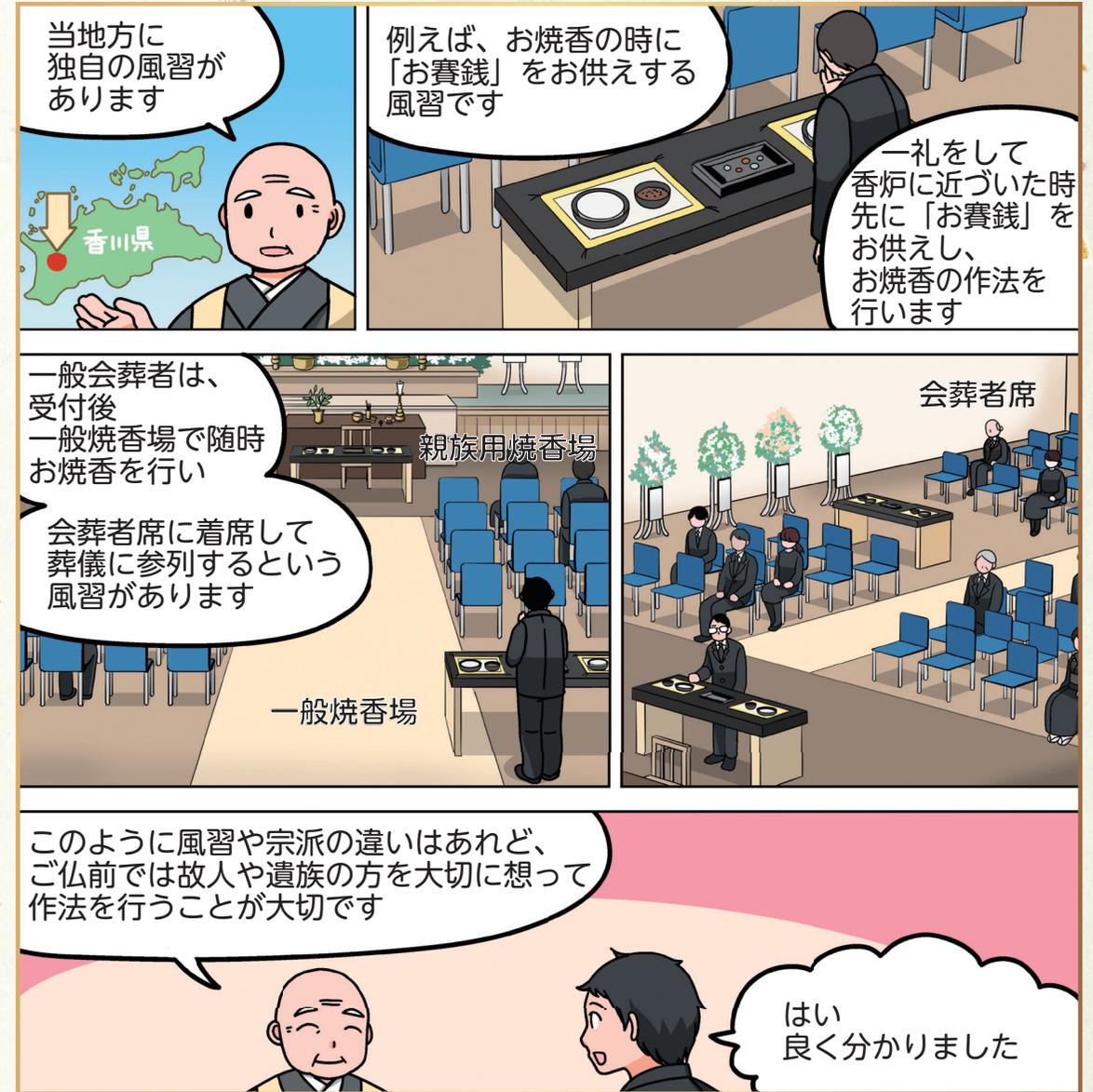
また、最初に焼香をする方が過剰な作法（何度も礼をする）を行うことにより、その後にならって過剰な作法が続くこととなりますので注意しましょう。

会葬者のお焼香について



立ってご遺族に礼をし、振り返って周囲の参列者に礼をし、お焼香の後も同様にする様子を近年多々みかけます。これは、葬儀に際して精神的な負担が大きな親族に何度も礼を強いることになりますので、十分考慮しましょう。この考え方はキリスト教儀式の「献花」や神道儀式の「玉串」をお供えするときも同様です。

高瀬地方のご仏前での作法について



- 香川県西讃地方ではお焼香時、お賽銭を「お香料」としてお供えする風習があります。受付でお香典をお供えしていますので、お賽銭を置かずに焼香をしても何も問題はありません。また、遺族はお賽銭の必要はありません。
- 一般会葬者は受付後、式場後方の一般焼香場で随時お焼香をすませてから席につく風習があります。お焼香は葬儀中、遺族・親族のお焼香の終了後に仏前の焼香場へ案内されるのが一般的ですが、上記のような作法は当地の風習です。